

授業形態	講義	科目名	英語学入門	必選区分	選択
開講学科・学年	大英2年		受講者数	約90名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他（英語力をつける、専門知識を身につける）			
どのような方法を取り入れたか	講義ノートを全て英語にし、全受講生がこれ入手できるようにコンピューター上のフォルダーに入れた。また、言語学的事象を講義ノートを使って説明した後、実際に練習問題を解くことで、説明していた事象がどうしたことなのかを深く理解することに努めた。講義ノート・練習問題およびクイズや試験は全て英語で出題し、学生には英語で解答させた。				
取り組みの効果	学生は英語を使って「英語学」を学んでいるが、言語学的事象を問題なく理解している。英語学に強い興味をもってくれた学生も多い。				
今後の課題	今までは授業で網羅したことのみを試験問題として出題していたが、応用問題も解けるような力を学生につけさせたい。また、英語力を伸ばすという観点からは、学生が自ら英語で自分の考えや理解したことを発信することも必要であると考え、英語によるプレゼンテーションも取り入れて教育の質を上げていきたいが、受講生数が多すぎるため、受講生数を制限することも必要だと考える。				

授業形態	講義	科目名	ツリーズム概論	必選区分	選択
開講学科・学年	大英3年		受講者数	約190名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ( )				
どのような方法を取り入れたか	<p>白紙を三角形に折って机の上に立つ様にし、それに学年・クラス・出席番号・名前を裏表に書かせて各自の前に置かせる。着席は、出席番号順に指定席として一人おきに着席。それで何列目迄に座らせれば190人が座れるかを計算して、それより後ろの席は着席禁止とする。授業はとにかく教室内を回りながらどんどん聞くスタイルを取り、マイクを回して答えさせる。</p>				
取り組みの効果	<p>仲の良い友達が隣に座っていて90分も口をきかないでいるということが彼女たちにとっては異常なこと！という認識に立ち、まずは仲の良い友達と隣同士に座るという行為を遮断すべく上記方法を取っているわけであるが、話そうにも距離が離れている関係から自明のこととして、隣とおしゃべりについては大なる遮断効果がある。机上ネームプレートも、質問をする際に名前を言って質問することができるので「個人として見られている」という意識の醸成に大なる効果がある。</p>				
今後の課題	<p>190人を一人おきに座らせることのできる教室の限られていることが悩みの種である。</p>				

授業形態	講義	科目名	ドイツ文化と文学 A・B	必選区分	選択
開講学科・学年	大英3・4年		受講者数	約120名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ( )			
どのような方法を 取り入れたか	<p>講義形式だが、毎回次回取り上げるテーマを伝え、それに関する様々な質問を投げかけ、挙手して答えるという双方向授業を展開している。1回発表するたびにプレゼン点を与えるという方法で、授業参加点30点分はこれで評価すると最初の授業で学生に伝える(シラバスにも記入)と、積極的に発言する学生が増えた。</p> <p>受講人数が多いので、挙手しても当たらない学生が苦情を言うことがあったが、様々な質問を投げかけるので、挙手する人が少ない時に手を挙げるができるよう、テキストを精読して知識を身につけるよう促した。</p> <p>時々、一度も発表していない学生を優先的に当てる方法を取って、少しでも多くの学生にプレゼン点が入るよう工夫した。</p> <p>テキストだけでなく、パワーポイントや写真を使って映像を見せて質問するという方法をとると、学生の集中度や理解度がより増したと思う。</p>				
取組みの効果	<p>発言者にマイクを回す関係上、前の方に座っている学生が優先権を持つことを伝えると、うしろに座っていた学生が前の方に移動して、常に前で熱心に授業参加するという状態になり、質問にいち早く答えようとする学生が増えた。しっかり予習してこないと何も答えられないので、テキストや関連する文献を読んできて、しっかり勉強してくる学生が増えた。</p> <p>内容を聞いて発言しないと授業についていけないので、私語も内職もなく、全員担当者の講義に耳を傾け、他の学生の意見もしっかり聞けるようになった。</p>				
今後の課題	<p>恥ずかしくて人前で発言できないタイプの学生が必ず数名はいる。そのような学生にも発言を促すための工夫が必要である。方法としては、間違った答えを言っても、参加点として半分の発表点を与えるという方法を採用する予定だ。また、質問の内容がテキストから離れ一般教養を問うものになったとき、挙手者が同じメンバーに限定されることに対して、学生から不満の声があがった。大学とは教養度が問われるところなので、普段から多くの本を読んで幅広い知識を身につけるよう促した。</p>				

授業形態	講義	科目名	英語児童文学A・B	必選区分	選択必修
開講学科・学年	大英4年		受講者数	約100名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ( )				
どのような方法 を取り入れたか	<p>大人数での講義授業であるため、必然的に私語が増え、注意散漫となり、その結果授業への意欲・関心が低下することになる。これに対する取組として、以下の点を取り入れている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 座席指定とする。</li> <li>・ 集中しやすい、めりはりのある授業内容とする。</li> <li>・ OHCやPCを投影し、視覚的效果によって学生の関心を高める。</li> <li>・ 講義形式ではあるが双方向授業とし、適宜学生に意見を求める（場合によっては、列ごとなど、学生を指名）。その際、全員が聞き取りやすいよう、マイクを回す。学生の意見に対して、別学生の意見を求める、もしくは担当者からのコメントをする。</li> <li>・ 授業の最後には、授業を聞いていなければ書けない内容のミニレポートの提出を課す。</li> </ul>				
取り組みの効果	<p>受講者数は多いが、私語はほぼみられない。マイクで意見を求められるからか、緊張感のある雰囲気を保っている。講義部分が長くなる時には画像や映像を活用しているため、学生が集中しやすくなっているようである。また、講義最後のミニレポート作成のため、必然的にしっかりノートを取っているように見受けられる。授業に集中しているため、積極的に授業に参加した感覚が学生にもあるようで、満足度は高くなっている。</p>				
今後の課題	<p>大人数であり、且つ机間巡視もしにくい教室形態であるため、教室の後ろのほうに目が届きにくいのが難点である。後列の学生も、しっかり参加していることを確認できるようにしていきたい。</p>				

授業形態	講義	科目名	ツーリズム概論 A・B	必選区分	選択必修
開講学科・学年	大英 4 年		受講者数	約 160 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ( )			
どのような方法を 取り入れたか	<p>授業開始前に最前列に置かれた資料をピックアップし、教壇上のビッグマで出席登録するよう周知していたが、ある時、開始前のドサクサにまぎれ、登録後にサッと教室から抜け出していき学生が数名いることに気づいた。クラスサイズが大きく、個々の学生に目が行き届いていないと考えたのだろう。実際、150名以上の学生を個別に把握するのは難しい。真面目に授業に取り組む学生の中には、このような不誠実な振る舞いをする学生がいることを知っている者も少なからずあった。(他の授業でもあると話してくれた。) 出席していても記録上は「出席」となることや、それを行っている個人名の把握が難しい中で、真面目な学生が不公平感を感じることがないよう、教員が把握できる対策を講じる必要性を痛感した。そこで、授業終了前の10分間を使い、ミニレポートを書かせることにした。レポートのテーマは、その回の授業で学んだことへの感想や質問、またツーリズムに関わるニュースの中で気になったことなど様々であり、日本語で書くよう指示する時もあれば、英語で書かせる場合もあった。(勿論、学生には出席確認のためとは告げていない。)</p>				
取組みの効果	<p>授業開始時の出席登録と終了時のレポート提出で、結果的に2重に出席確認をしていることになり、抜けだす学生には抑止効果があったのは言うまでもない。同時に、レポートを書かせることで、問題意識を持って授業に取り組む学生が増えたのは喜ばしいことである。また、短時間で自分の考えをまとめ、文章化することは、就職活動においても求められるということを説明したため、皆真剣に、使う言葉にも注意を払いながら取り組むようになった。</p>				
今後の課題	<p>大教室で後方座席に座る学生たちのおしゃべりや居眠り、内職など、クラス全体のコントロールが今後の課題。On the spot で注意・喚起してはいるが、教室内を少しでも良い環境にすべく工夫を重ねていきたい。座席指定制なども考えられるが、学生の自主性、主体性を促す方向に持っていきたいと考えている。</p>				

授業形態	講義	科目名	国際関係論講義 (Sクラス、英語授業)	必選区分	選択必修
開講学科・学年	大英4年		受講者数	約15名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ( )			
どのような方法を 取り入れたか	<p>学生の力、理解度に合致しつつ本格的な内容の英語テキストを、1講義につき一つのもまとまったトピックで、A4裏表2ページで作成し、1週間前の授業で配布し、読んでこさせる。内容は、意図的に、必要最低限のことに抑える。授業では、学生への理解確認の質問、学生からの内容の質問を適宜交えながら、テキストの内容の解説を行った後、5分程度で授業の内容理解を確認する3択（英語で書かれた3つの選択肢から正解を選ぶ）4問の小テストを行う。授業最後の5分は、日本語でテストの解説を行い、それによって英語の解説で内容を理解し損ねた学生の理解を補足する。また、小テストだけでは、授業で得た知識を展開させ、大きな問題意識につなげることができないので、レポート課題を与える。レポートでは、国際関係の諸問題に関して態度を大きく異にする3人のアメリカ人の大学生が、2003年のアメリカのイラク攻撃の翌日に、大学のカフェで戦争の是非について様々な側面から議論する架空の英語での会話を私が作成し（中江兆民の『三酔人経綸問答』の現代アメリカ版）、受講者に、授業で得た国際関係の知識を生かして、3人の意見を分析し、論評させる。</p>				
取り組みの効果	<p>意図的に分量を抑えた英語テキストを予習で精読させ、授業で隅から隅まで解説することで、予習を怠らない学生、あるいは一部の予習の必要がないような能力の高い学生に関しては、ほぼ完全な内容の理解が可能になっている。授業の最後に小テストを行い、その場で自分の理解度が確認できることも、学習の励みになっているように思われる。日本語での説明は、必要としない学生もいるが、英語力が多少低い学生に、国際関係について言語はなんであれ理解させるといふ、授業の本来の目的上、一定の役には立っている。</p>				
今後の課題	<p>自分の授業の枠を超える問題だが、大部分の学生が、英語の教材、多肢選択の小テストには対処できる英語力があっても、レポートを書くのに必要な英語力を全く持たないので、授業の理解度がレポートに反映されない。卒業論文を英語で書くと言った、無意味で非現実的な方向に学科が向かっていることも関連して、大きな問題である。英語授業を止めるか、あるいは、教員レベル、授業内容を劇的に改善して、入学者の質を飛躍的に向上させない限り、解決しない問題である。</p>				

授業形態	演習	科目名	リーディング系の科目 (複数年にわたって)	必選区分	必修
開講学科・学年	大英1年		受講者数	約30名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> その他(対面式授業の特性を活かす)				
どのような方法 を取り入れたか	英文ではリーディング系の科目にスキル重視の授業を取り入れている。このやり方だけでは、学生が本当にリーディングマテリアルを理解できているのかどうかを知ることが難しい。そこで、テキストの練習問題等を $\mu$ Cam 上で解答させた。				
取り組みの効果	リーディングマテリアルについて詳しく説明したり、学生に内容を説明させたりする時間を確保した。学生たちは、ディスプレイ上で他の学生の解答を見ることが可能で、他人の解答の問題点を指摘し、また修正を考えたりすることで、より深く英語を考える契機を持ったと思われる。				
今後の課題	中高の時から、英文をきちんと読む訓練を受けていない学生たちの読解能力は目も覆うばかりであるにもかかわらず、詳細な説明等を始めると居眠りをする学生が目立つ。特に導入当初は、コンピュータ教室を使用していたこともあり、ディスプレイの陰に隠れて、内職などをしている学生も多くいたが、現在は普通教室で大画面に $\mu$ Cam から落としてきた学生の解答を投影することで教室の死角を少なくしている。				

授業形態	演習	科目名	英語の発音	必選区分	必修
開講学科・学年	大英1年		受講者数	約50名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ( )				
どのような方法を取り入れたか	<p>①パソコン教室で映像、音声、OHPを利用して英語の発音指導をした。</p> <p>②音声矯正ソフトを利用して、個々の学生が自分の発音を自分のペースで出来る時間をもうけた。</p> <p>③Skypeを利用して、海外遠隔授業を行った。</p> <p>④授業毎に2～3名を教卓に呼び、個別発音に関する資料を用い、個人発音指導を行った。</p> <p>⑤L2-26 SKYPE ROOMにて個別に海外講師と協力して学生発音の指導を行った。</p>				
取り組みの効果	<p>①学生の理解が深まった。</p> <p>②海外遠隔授業によりネイティブの教員とのペア授業で、学生の英語の発音に関する理解が深まった。</p> <p>③個々の発音指導により今後の発音課題や改善点を指導出来た。</p>				
今後の課題	<p>講義ではなく演習授業には学生人数が多すぎるので、学生の英語発音を改善するにはクラス分割をして少人数クラスが望まれる。(今後の授業の改善余地の課題はありますが、失敗例として記する事は特にありません。)</p>				



授業形態	演習	科目名	ライティング I	必選区分	必修
開講学科・学年	大英 1 年		受講者数	約 30 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ( )				
どのような方法を 取り入れたか	<p>本授業で使っている 3 種類のライティングの中で、freewrite というライティング手法がある。これは、与えられたテーマに沿って時間内にできるだけ多くの英文を書くというものである。これは辞書なしで自分の意図を表現しようとするもので、時には、適切な英語語句が見つからない場合がある。表現が初めから知らない、または忘れたなどの問題の時に「言い換え」の手法を使うように指導している。この言い換えによって、適切な語句を知らなくても、知っている語句を駆使することによって、多様な表現方法があることを伝えている。</p> <p>授業外での課題としてパラグラフ・ライティングがある。授業内でマインド・マッピングをした後、授業外で課題を作成して持参する。</p>				
取組みの効果	1 つの考えを表現するのに 1 つの言い方しかないという固定観念は薄らいでいるのではないかと思っている。				
今後の課題	エッセイタイプのライティングが今までは主流であったが、今後は、英語での卒論執筆に向けてよりアカデミック・イングリッシュとはどのようなものかを 1 年次から導入・紹介していく必要がある。				

授業形態	演習	科目名	卒業研究 I A・I B	必選区分	必修
開講学科・学年	大英3年		受講者数	約20名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ( )			
どのような方法を 取り入れたか	<p>指定した原書の教科書 (G. Yule Pragmatics) を読み進めている。毎回、学生が2～3名のグループをつくってプレゼンテーションを行い、それ以外の学生も対象箇所を読んで、議論をしている。従来は、授業担当者から教科書のアウトラインを取り上げた「まとめプリント」をそのつど渡し、議論をしながらまとめさせていた。しかし平成24年度以降、学生の要望も取り入れて、1週間前に渡すようにした。予習で「まとめプリント」に自分の考えを書き込むのは鉛筆で、プレゼンテーションや授業担当者の説明を聞いて英文の読みが間違っていた部分や理解が足りなかった部分は赤字で、それぞれ書き込むよう指導し、学修の成果が一目でわかるようにした。</p>				
取組みの効果	<p>学生が教科書をより深く理解するようになり、議論が活発になった。また、このプリントは卒業論文に繋がる内容をまとめた「学習ポートフォリオ」としても機能しており、卒業してからも「ゼミの思い出」として大切にしているようである。</p>				
今後の課題	<p>あらかじめ「まとめプリント」を配ってしまうことで、ゼロから原書を読み進める訓練がなされないという指摘があるだろう。「わたしはこう読んだけど、全く違っていった！」という(適度な)驚きが、英文読解の研鑽に役立つこともあることは否定できない。実際4年生の「卒業研究II」では、さまざまな原書資料を読み込むことが必要となり、苦勞している学生の姿が目立つようになってきている。今後、学生の自主的な学びを促すための工夫をさらに考えていきたい。</p>				

授業形態	演習	科目名	卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	必選区分	必修
開講学科・学年	大英3・4年		受講者数	約15名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ( )				
どのような方法を取り入れたか	<p>「卒業研究Ⅰ」は3年生対象の、「卒業研究Ⅱ」は4年生対象のゼミです。いずれのクラスでも、学生には英文学の中で最も有名な古典的作品(主に小説)の読了に挑戦してもらい、その読解作業を通して、英語読解力を鍛え、英語の総合的実力の向上を図ることをめざしています。この作業に並行するかたちで、文学作品の解釈力・分析力を鍛え、文学を愉しむコツを経験させることをめざしています。この2つの目標を達成するために、以下のような方法を取り入れています。 1) 文学作品は最後まで読了しなければ面白さがわからないので、およそ500ページほどある原著を精読と粗筋の紹介により、読了することをめざします。 2) 精読については、教員があらかじめ作品中の該当箇所を指摘し、担当者を決め、担当者には辞書使用による徹底的な予習を求めます。場合によっては、担当学生に自らの翻訳文をメールにて教員への提出を求めます。教室では、この翻訳文を印刷して学生全員に配布し、この翻訳文と原文との比較対照を行うことにより、正確な意味の把握に努めます。 3) 粗筋の紹介については、翻訳書を活用することにより、教員があらかじめ担当箇所を選び、学生に日本語で1,000字程度の粗筋を作成させます。教室では、これを印刷して学生全員に配布し、担当者には自らの粗筋を皆の前で発表させ、それを基にして作品解釈をめぐって学生と教員による議論を行います。 4) 精読と粗筋の紹介を組み合わせることにより、1年間で長編作品の読了を図り、これにより著名な英文学作品を全編読了した達成感を学生に味合わせることをめざしています。</p>				
取組みの効果	<p>1) ゼミで読了した作品を卒業論文の研究対象に取り上げる学生が増え、文学研究を深める意欲をもった学生が出てきた。2) 英語の正確な意味の把握を求めて、英文を正確に丁寧に読む姿勢が身に付いてきた。3) 粗筋を書かせることにより日本語表現力の向上があり(特に4年次学生において)、ひいては文章構成力のみならず論理的思考をも鍛えることができた。4) 英文学の名作に触れさせることにより国際的素養を幾らかでも身につけさせることができた。</p>				
今後の課題	<p>1) 学生への質問と学生からの返答を繰り返すことにより双方向的な授業を行っているものの、学生からより一層積極的な反応を引き出す工夫と、学生のプレゼンテーション力を高める工夫が求められる。 2) 文学作品を読了するのが精一杯であるため、さまざまな研究論文を読ませて、作品解釈に向けての議論を深める余裕を確保する必要を感じている。3) 学生の多種多様な文学的関心に応え、適切な指導を行うためには、ゼミ学生数の検討が求められよう。</p>				

授業形態	演習	科目名	リーディングⅡ	必選区分	選択
開講学科・学年	大英2年		受講者数	約30名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ( )				
どのような方法を取り入れたか	構造が複雑な文を分析し、プリントとして配布した。				
取り組みの効果	ノートを取らなくなるなど受動的な受講者が増えた。				
今後の課題	板書とプリントのバランスに配慮する。				

授業形態	演習	科目名	翻訳ワークショップA	必選区分	選択
開講学科・学年	大英3年		受講者数	約30名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取り組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取り組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	発言を促す取り組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間外学習を促す取り組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取り組み			
	<input type="checkbox"/>	その他 ( )			
どのような方法を取り入れたか	翻訳の基礎を網羅したテキスト、『翻訳基礎のワークブック』を使用する以外に、Roald Dahl の短編集から学生の興味を引きそうな作品を選び、翻訳の教材として使用した。個人で翻訳を試みた後、グループで討議させ、最後にグループごとに発表を行わせた。				
取り組みの効果	1系（文化・文学）の学生が対象であるので、文学作品自体に強い関心を示し、非常に熱心に取り組み、かつ楽しんでいる様子うかがえた。また、色々な質問が出て、翻訳技術だけでなく、言語の背景にある文化についても理解を深めることができた。				
今後の課題	さらに、学生の興味を引くような教材探しに取り組みたい。				

授業形態	演習	科目名	現代コミュニケーション英語Ⅲ A	必選区分	選択・選択必修 (コースによる)
開講学科・学年	大英4年		受講者数	約30名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ( )				
どのような方法を 取り入れたか	<p>I provided many first-hand accounts of intolerance: a study conducted in 1954 with two groups of boys (The Robbers Cave Experiment) that showed how quickly people form 'in' and 'out' groups, a study during the 1960s in the U.S. (A Class Divided) that showed how easily children could be manipulated to become intolerant, a study conducted in the 1950s in the U.S. (The Doll Test) that showed the degree to which Black children internalize their inferior status, the story of Miss Japan 2015 and her experience growing up biracial in Japan, an African American writer who felt alienated from American culture and embraced Japanese culture, a child's experience with bullying. These materials deepened the students' understanding of human group behavior and also helped them to identify emotionally with the experiences of the people involved.</p> <p>I used many PowerPoints and short videos with follow-up discussion questions that encouraged the students to think about their own lives and how they connect to the topic, as well as prompting them to form and support their own opinions. In addition to charts illustrating the interconnectedness of our world in the areas of business and trade and PowerPoints about culture and language, I used segments of the movie Lord of the Flies, the PBS video A Class Divided, the documentary The Doll Test, a clip of Hitler addressing Nazi youth, and Charlie Chaplin's speech at the end of The Little Dictator, which encourages acceptance and tolerance. Each lesson had the following sequence of activities: an introduction, a PowerPoint, video or reading (either read in class in small groups or assigned as homework), large-group vocabulary and comprehension check, small-group discussion followed by large-group check-in and final comments.</p> <p>Every class period had time for students to reflect on the topic and discuss their opinion in groups of 3 or 4, before checking in with the other groups and final comments from me.</p> <p>Students had regular reading assignments and weekly quizzes about Japanese culture to keep them on target.</p> <p>Regular reminders about how important the topic is for today's world and for their own personal development, as well as emphasis on the potential benefit in obtaining a job in which they can use both their English skills and their insight into culture to operate effectively in a multicultural environment.</p>				
取組みの効果	It worked very well. This year, I am teaching the first semester of the same course, and I am using many of the same materials and a similar progression.				
今後の課題	I feel this topic is so critical for students. I might use parts of it in my future classes at MFWI.				

授業形態	演習	科目名	ドイツ語Ⅲ	必選区分	選択必修
開講学科・学年	大英2年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ( )				
どのような方法 を取り入れたか	<p>演習形式の語学授業だが、初級文法を終えた学生なので、リスニングとスピーキングに重点を置き、ドイツ語だけで授業を展開している。ビデオ教材を利用して、テキストを2課ずつ進むやり方で、様々な場面で使う会話をビデオで2回聞かせ、その後ビデオを聞かせながら、ドイツ語で質問し、挙手して答えるという方法を取っている。ドイツ語で発表した人にプレゼン点を与え、その合計が評価点の40%を占める。試験も1人ずつビデオを見せて10問ドイツ語で質問し、それに答えるという方法で実施している。聞く力と話す力を身に着けることは困難だが、テキストがあるので事前に予習しておけば、話の内容と単語の意味が分かるので、ドイツ語で発信できるようになる。</p> <p>受講人数が多いので、挙手しても当たらない学生が苦情を言うことがある。時々平易な質問をし、発言回数がゼロの人だけ答える権利を与えるという方法を取っている。間違っても発言点が欲しいという意見があったが、語学の場合は正確に聞き取る必要があるため、正解のみ点数を与えるという方針を貫いている。</p>				
取り組みの効果	<p>熱心にテキストを予習して来て、授業中挙手できるようにしてくる学生が増えた。ドイツ語で聞き取り発言できないと単位が取れないので、全員授業中はビデオ教材を集中して聴いている。担当者のドイツ語での質問が最初は聞き取れないが、4回目ぐらいから聞き取れるようになり、最後にはほぼ全員挙手できるようになる。この方法のおかげでドイツ語検定3級合格者が、昨年は60%までになった(平均10%)。独検の試験対策として単語や熟語の試験もするが、評価は会話力に重点を置いたものになっている。</p>				
今後の課題	<p>最初は全員、ドイツ語を聞き取る力や会話する力がない学生ばかりである。しかし、発言しないと単位がもらえないとわかると、たいていの学生は必死になって予習復習する。いつまでたっても発信できない学生が必ず数名はいる。その学生だけ残して補講するが、勉強する癖がついていないのか、外国語のリズムが習得できないのか、再履修になってしまう場合が多い。ペーパーテストのみでの評価になった学生に、口頭での発信力を問う科目は戸惑いが多かったようだ。大多数の学生は高く評価してくれたが、10%の学生は四苦八苦していたようだ。</p>				

授業形態	演習	科目名	ビジネス・イングリッシュ I	必選区分	選択必修
開講学科・学年	大英3年		受講者数	約 50 名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ( )				
どのような方法を取り入れたか	<p>本教科では国際的なビジネスシーンにおける英語運用能力を身につけることであり、その訓練の一環としてシャドーイング、リピーティング、ロールプレイを導入した。また、自発的な発表を促すために授業内での発表や板書を促した。</p>				
取組みの効果	<p>クラス受講者数が多くそれぞれの訓練方法を効果的に実施することが難しかった。また、授業内で個人が発表する時間・回数に制限があり、発表する学生が偏る傾向があった。</p>				
今後の課題	<p>受講者数を制限することが難しい演習科目の場合は、全体をいくつかのグループ分けて効果的・効率的に作業・練習をさせる工夫をする必要がある。また、発表の場を公平に与える工夫も必要である。ICT を活用した授業展開や自律学習（含時間外学習）の推進も重要だと考える。</p>				



授業形態	演習	科目名	ビジネス・イングリッシュⅠ	必選区分	選択必修
開講学科・学年	大英3年		受講者数	約40名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ( )				
どのような方法を 取り入れたか	<p>学生の専門分野への興味や卒業後のニーズを満たす実践的な英語教育を目指している。演習クラスでは、受講生の学習意欲を喚起し、発言を常に促すよう、学習者参加型のアプローチを導入している。具体的な方法として以下のことを実施している。</p> <p>1. ペアワークの活用 毎回異なるペアーを作り着席させる。教員の質問や教科書の設問の解答を確認するとき、受講者はまずペアーで意見を交換し合い、その後クラス全体に対して発表するようにしている。互いに学びあうピアサポートを促している。</p> <p>2. ビジネス関連事項の紹介 グローバルなビジネス関連事項に受講者の関心を喚起するため、その時々話題になった新聞やインターネットに掲載されている記事（オーセンティック・マテリアル）を紹介している。</p>				
取り組みの効果	<p>1. ペアワークの活用 毎回異なる受講生とペアーを組み、教員の質問や教科書の設問の解答を話しあう授業形態をとることにより、受講生はその準備として予習をおこなうことが習慣になってきている。また、発表を促してもひとりでは自発的に行う受講生は少ないが、発言の前にペアーで意見を交換することにより、ひとりで発表を躊躇する受講生の不安のレベルを下げ、積極的に発言しようとする姿勢の育成ができていていると考えている。</p> <p>2. ビジネス関連事項の紹介 オーセンティック・マテリアルの英語学習を通して、国内外の企業の取り組みやビジネスリーダーの考えなど実際のビジネス関連事項への関心、理解を深めていると考えている。</p>				
今後の課題	<p>教科書を使用しているクラスなので、時間に余裕があるときに、オーセンティック・マテリアルを使ってビジネス事項を紹介している。授業内だけでは、時間的な制限があるため、内容を深く掘り下げることはできないが、受講生の関心を喚起するような内容を取り上げることによって、授業外でも社会でのできごとなど英語で発信されているものに興味を持ち、自ら学ぶという自律した学習者になるよう育成していきたい。</p>				

授業形態	演習	科目名	グローバル化と日本A	必選区分	選択必修
開講学科・学年	大英3年（ACE学生）		受講者数	約20名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取り組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取り組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	発言を促す取り組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間外学習を促す取り組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取り組み			
	<input type="checkbox"/>	その他（ ）			
どのような方法を 取り入れたか	<p>This content-based course, in concert with other upper-level courses within the ACE program, is intended to equip students with linguistic, socio-cultural and academic knowledge that will prepare them for glocal (local and global) interaction, whether personal or professional in nature. The course contextualizes theoretical and practical debates relating to identity and globalization, and therefore pays particular attention to Japan, East Asia and other linguistic and cultural discourses and peoples implicated in Japan's ongoing negotiation of its nature and place in the global community. During the course, students developed academic skills related to the reading and discussion of scholarly articles, and the completion of a research-based term paper and poster presentation. Students also had the opportunity to participate in interactive presentations led by the instructor, simulating academic conference activities.</p> <p>In the class, I worked to cultivate a classroom environment that encouragee students to engage and interact with each other and me. I provided course materials that connected with students' learning needs and personal and professional goals for tertiary study. I attempted to shape the course to equip students both to actively pursue linguistic and socio-cultural knowledge pertinent to their lives and future pursuits, and to contribute to enriching the learning experience of their classmates.</p>				
取り組みの効果	<p>The concepts in the class were challenging, and I therefore had to be flexible in terms of creating and modifying course contents. The students, however, were wonderful and participated/contributed actively in class. Student work was also exceptional. They were an amazing group of students.</p>				
今後の課題	<p>I believe a teacher must be self-reflexive: always evaluating and re-evaluating teaching choices both during and following the creation and instruction of a class. This course reinforced, for me, the necessity of drawing on students' knowledge and lived experiences when creating a class, so that their needs and goals might be better met.</p>				

授業形態	演習	科目名	英語学演習	必選区分	選択必修
開講学科・学年	大英3・4年		受講者数	約20名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他 ( )				
どのような方法を取り入れたか	毎週、担当者を複数決めておき、担当箇所の英文法の項目を教材にして模擬授業を行わせた。担当者以外の学生には、生徒の役を与え、自由に質問させるという形式にした。				
取り組みの効果	実際に教員が授業をするときに比べて、気軽に発言できるせいか、とても活発に質問がなされ、見事に双方向の授業が成立していた。				
今後の課題	一部の学生が取り入れていたが、担当した英文法項目に関する練習問題を用意し、その問いに答えさせることによって、より一層発言を促すことができると思われる。				

授業形態	演習	科目名	アクティブ・グラマー A・B	必選区分	選択必修
開講学科・学年	短英2年		受講者数	約20名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> その他（以上の全てを高める（深める）総合的な取組み）				
どのような方法を 取り入れたか	<p>毎週課題を出し、必ず課外の活動（予習）をさせるようにしている。クラスの前日までに教員の学科内メールボックスに提出させ（期限後は一切受け取らない）、教員はどの程度真剣に取り組んでいるか提出物をざっと見て評価し、提出日のスタンプや簡単なコメントを入れて、クラスで返却する（正解不正解より努力が評価対象）。提出物の答え合わせなどクラスの中で学生の発言を中心に、採点も学生本人に行わせる。この事前提出の仕組みにより、なんの準備もせずにクラスでポーッとしている学生は一人もいない。このクラスは3週でワンセットになっており、1週目にインプット（英文の内容把握、文法解説、音読・シャドーイング）を行い、2週目と3週目でアウトプットを行う。2週目には基礎的発信力を鍛えるために英文中に出てくるチャンクのお口頭テスト、音読・シャドーイングを一人ひとり全員の前で行う。3週目は英文内容のサマリーに自分の意見をプラスした1分半ほどのスピーチをしてもらう。3週目当日は、ソロ、ペア、グループの3つのタイプで30～40分ほど練習させ、残りの時間で教壇に一人ひとり立ってスピーチを行う。聞いている学生にはスピーチの良かった点や改善点をメモさせる。スピーチは全て撮影し、各学生用に切り分け、スクリーンした他の学生のコメントを併せて、クラウド上にアップする。自分のパフォーマンスを動画でチェックし、他の学生のコメントを読んだ上で、自己分析シートに記入して提出させる。全体として、英語力をつけるのに効果があるとされているメソッドの多くを可能な限り一つのコースの中に盛り込んだものになっている。</p>				
取り組みの効果	<p>短英2年の学生対象のクラスなのだが、このクラスで高評価の学生の中に「このクラスで実力がつきました。ありがとうございました。」と言って、大英3年に編入せずに、他大学に編入していく学生がいて悩ましいところだが、クラスでの取組の効果の証でもあると考えている。そういう一部の学生だけでなく、2週目や3週目にアウトプット（スピーチなど）をしないといけないと分かっている分、1週目のインプットにも全体としてより真剣に取り組んでいる印象がある。学生にやってほしいことがあるなら、それをやらなければ評価（単位）につながらないような「仕組み」を作ればいいと思うが、このクラスではある程度それが実践できており、効果も上がっていると考えている。</p>				
今後の課題	<p>受講生の数に上限を設けられないので、受講者が今後増えた時にどのように柔軟に対応できるかが検討課題となっている。「アクティブ・グラマー」という科目名ではあるが、文法の復習には科目名から連想されるほどあまり時間を割いていないので、課外で文法の復習が今以上にできるシステムを検討している。また、一つの英文に対して3週当てるので、15回の学期中に4～5つしか英文を読まないことになる。グレイディッド・リーダー（多読）の課題と組み合わせるなど、インプットを増やす工夫が必要である。もっとも、この一つのクラスの中だけで英語学習の全てを完結させようとする必要はないので、他のクラスとの兼ね合いや組み合わせ方を考えることも今後の検討課題といえる。</p>				

授業形態	講義	科目名	再履修英語（前任校科目）	必選区分	必修
開講学科・学年	大英4年		受講者数	約30名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取り組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取り組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取り組み				
	<input type="checkbox"/> その他（ ）				
どのような方法を取り入れたか	<p>「英語が苦手、大嫌い」という学生が多いクラスにおいて、個人への負担を求めるのではなく、グループによる活動をメインとした授業を構成した。ただし、単なる仲良しグループや固定された座席のグループではなく、コミュニケーション力の養成（異なる他者への働きかけ）を求め、学年、所属学部、出身県、サークル、趣味といった学生の多様なバックグラウンドを共通項として使用し、グループ分けを行った。学生同士の異質な組み合わせの交流を活用する方法である。</p>				
取り組みの効果	<p>授業毎にグループ編成を行い、あまり話したことがなかった人とも交流を蓄積させていったことで、クラス内を縦横に交差するつながりが出来始めた。そして、教室内で知っているクラスメートが増えていくことで、授業参加の後押しになったようである。</p>				
今後の課題	<p>各グループ内の個人の貢献を管理することができず、グループ活動へ便乗するだけの学生がいたという授業アンケートの声があった。クラス全体の雰囲気が活発になってきたとしても、グループ内の個人の役割や活動内容を促すような活動・指導が課題である。</p>				

授業形態	講義	科目名	英語ワークショップ（前任校科目）	必選区分	選択
開講学科・学年	大英3年		受講者数	約20名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input type="checkbox"/> 理解を深める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 意欲・関心を高める取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 発言を促す取組み				
	<input type="checkbox"/> 時間外学習を促す取組み				
	<input checked="" type="checkbox"/> 学習態度を良くする取組み				
	<input type="checkbox"/> その他（ ）				
どのような方法を取り入れたか	<p>小集団の中で「話す・聞く・発表する」という活動を目的として、英字新聞や英語圏雑誌にある読者からの『お悩み相談』を活用した。一般読者から寄せられる身近な話題～恋の悩み、人生の悩み、職場の悩み、家族関係の悩み～(英語文)をグループで読み、専門家の立場であることを想定し、ユニークかつ建設的な答えをグループでまとめさせる。そして、それを英語で発表し、討論するのである。</p>				
取組みの効果	<p>トピックが身近で、等身大の話題や興味深いものであれば、個人だけでなく、クラス全体で議論する活動に発展した。自分の意見を言うことが恥ずかたという学生も、グループで一度話し合う時間を設けることで、クラス全体の中でも発言できるようになった。</p>				
今後の課題	<p>英語力に関係なく、積極的に学生の参加が見られたが、TOEIC等で伸びを測るための基準などがあいまいであった。また、活発な意見交換が見られたが、一定の表現を繰り返す学生もいた。多様な英語表現の習得を目指すようにフィードバックの時間を設けたり、フレーズを身に付ける学習時間を組み合わせることが課題である。</p>				

授業形態	講義	科目名	アメリカ学概論（前任校科目）	必選区分	—
開講学科・学年	1年		受講者数	約100名	
最も力を入れた 取り組みポイント	<input checked="" type="checkbox"/>	理解を深める取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	意欲・関心を高める取組み			
	<input type="checkbox"/>	発言を促す取組み			
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間外学習を促す取組み			
	<input type="checkbox"/>	学習態度を良くする取組み			
	<input type="checkbox"/>	その他（ ）			
どのような方法を取り入れたか	<p>アメリカの歴史を学ぶ授業だったが、昨今の本を読まない学生の傾向を考慮し、テキストの内容を穴埋め形式でまとめたおしたB4大のプリントを事前に配布し、予習としてテキストを読む習慣の定着を図った。また、各プリントの右側のページには関連する資料を印刷し、内容理解の深化に努めた。</p> <p>また、講義はどうしても一方向的になってしまうので、各単元が終わるごとに、独自の授業評価アンケートを実施し、自由記述欄には、授業内容に関するコメントを求め、学生の理解度を確認した。鋭い指摘や重要な質問については、授業の中で取り上げ、できるだけ双方向的授業の実現に取り組んだ。</p>				
取組みの効果	<p>学生自身に予習としてテキストを読んでもらうことを目的にプリントを作成したが、アンケート結果では、残念ながら予習率は低かった。むしろ、授業中に講義を聞きながら埋めていくという形で利用している学生が多く、その分、授業中に集中して話を聞いている学生が多いように見受けられた。アンケート結果において、予習率の低さの割に、「積極的に授業に取り組みましたか」という問いに肯定的に答える学生が多かったのは、そのあらわれと考えられる。</p>				
今後の課題	<p>利用のされ方はこちらが意図したものではなかったが、穴埋め形式のプリントは、学生におおむね好評だった。しかし、中・高と穴埋め形式の学習法に慣れてきた学生には、逆に自分でノートをとる、内容をまとめる、あるいは説明するといった作業が苦手な者が多く、定期試験の論述問題部分が空欄のままの答案が多かったのも事実である。授業の規模や性質にもよるが、今後は、学生一人ひとりが自分自身で考え、自分の力で文章を読み書きできる力を伸ばす工夫が必要であると感じている。</p>				